

ウエアレスRadial diaphragm™ インラインバルブ

設置、操作、および保守マニュアル

目次

1 安全上の注意事項	2
2 概要	5
2.1 バルブの説明	5
3 バルブを開梱する場合	6
3.1 バルブアセンブリの開梱	6
3.2 梱包材の廃棄	6
3.3 検査	6
3.4 付属	6
3.5 保管	6
4 起動時のチェックリスト	7
5 ダイヤフラムの選択	8
6 設置	9
6.1 バルブ本体を取り付ける	9
6.2 ダイヤフラムの取り付けと取り外し - 手動式アクチュエータ	9
6.3 ダイヤフラムの取り付けと取り外し - 空気圧式アクチュエータ	14
7 アクチュエータ - AKSシリーズ	18
7.1 AKS手動式アクチュエータのメンテナンス	18
7.2 AKS空気圧式アクチュエータのメンテナンス	21
8 洗浄および消毒	28
9 仕様	29
10 トラブルシューティング	30
10.1 技術サポート	31
11 部品リスト	32
11.1 交換用ダイヤフラム	32
11.2 アクチュエータメンテナンスキット	32
12 保証	33
13 返品に関する情報	34
14 製造元の名称と所在地	35
15 商標	35
16 出版履歴	35
17 免責事項	35

1 安全上の注意事項

この安全に関する情報は、本マニュアルのその他の内容と併せて使用する必要があります。

安全のため、このバルブとアクチュエータは、適切な訓練を受けた担当者が本マニュアルの内容を確認して理解し、関連するあらゆる危険を考慮した上で使用する必要があります。ASEPCOが指定する方法以外の方法でバルブを使用した場合は、バルブとアクチュエータが備えている保護機能が損なわれることがあります。この機器の設置や保守の担当者は、作業を実行できる適切な能力を有している必要があります。英国では、この担当者は、1974年労働安全衛生法(または地域に応じた類似の法規制)にも精通している必要があります。当製品は、電気事業法にいう事業用電気工作物として設計・製作されています。



製品および本マニュアルで使用されているこの記号は、「示されている状況において重度の人身傷害、人命の損失、または機器の損傷が発生する可能性があります」を意味します。すべての指示に従っていることを確認してください。



製品および本マニュアルで使用されているこの記号は、「注意。高圧空気/高プロセス圧の危険があります」を意味します。



製品および本マニュアルで使用されているこの記号は、「注意。高温になっています」を意味します。



製品および本マニュアルで使用されているこの記号は、「注意。感電のリスクがあります」を意味します。



製品および本マニュアルで使用されているこの記号は、「個人用保護具(PPE)の常に着用する必要があります」を意味します。



ASEPCO製品を指定の操作範囲外で使用しないでください。



有害流体を移送するラインにバルブが設置される場合は、該当の流体および用途に合った安全手順に従って、人的損害を防止する必要があります。



湿気がたまり、アクチュエータの摩擦が大きくなるのを避けるために、汚れのない乾燥した空気のみを使用して、空気圧式アクチュエータを操作してください。



プロセス圧力の突発的な解放による人身傷害や物的損害が発生しないよう十分注意してください。メンテナンス作業を実施する場合は、まず以下に従ってください。



- 空気圧、電力、または制御信号をアクチュエータに供給する配管や配線を取り外します。アクチュエータによってバルブが突発的に閉鎖されないようにします。



- バルブがまだ加圧されているときはバルブからアクチュエータを取り外さないでください。



- プロセス圧力からバルブを隔離するためには、バイパスバルブを使用するか、プロセスを完全に停止します。バルブの両側でプロセス圧力を解放します。バルブの両側からプロセス媒体を排出します。

- プロセス媒体から保護するために実施する必要がある追加の対策について、プロセス安全担当エンジニアに確認します。



バルブアセンブリおよびその構成部品と直接接触する化学物質が、流体経路で使用されるバルブ本体、アクチュエータ、ダイヤフラムに適合することを確認してください。サポートが必要な場合は、最寄りの代理店にお問い合わせください。



運転中にバルブの外表面が熱くなることがあります。再配置または保守作業を行う前に、ユニットを冷却する必要があります。



蒸気を当てているときまたはバルブに圧力がかかっているときに、バルブクランプを開かないでください。



重要：空気圧式アクチュエータのシールは、一般的なアクチュエータの場合は3年毎、ATEXアクチュエータの場合は毎年交換しなければなりません。手動式アクチュエータのシールは10年毎に交換しなければなりません。 See「部品リスト」 ページ32, for replacement kit part numbers.



オートクレーブ内の滅菌後、バルブとアクチュエータの表面が熱くなり、取り扱いの際にけがの原因となる可能性もあります。適切な個人用保護具を着用する必要があります。また、バルブとアクチュエータを取り扱う際には注意が必要です。





ASEPCO製品はその製品情報もしくは仕様で指定されている圧力および温度範囲内でのみ、またはASEPCO社によって書面で承認された内容で、使用しなければなりません。

ASEPCO製品の誤った使用は、人身傷害または物的損害をもたらす可能性があります。ASEPCO製バルブで漏れの兆候が見つかった場合は、操作せずに、ラインから取り外し、修理または交換してください。

2 概要

このマニュアルは、ASEPCO社製ウエアレスRadial diaphragmインラインバルブの設置、操作、およびメンテナンスに関する基本的な情報を記載しています。このマニュアルでは、手動式および空気圧式アクチュエータの使用方法についても説明します。特にことわりのない限り、すべての説明がすべてのバルブに適用されます。

2.1 バルブの説明

すべてのバルブは、シールを形成するサニタリー性のあるクランプを使用して組み立てられ、市販されているどのせき形バルブよりも優れた機能を提供します。保守作業に工具は必要ありません。

すべてのバルブには、以下の3つのコンポーネントがあります。

- **バルブ本体:** バルブ本体は、ステンレス鋼棒材から機械加工された一体成形品で、お客様の要望に応じて継手を溶接致します。
- **アクチュエータ:** 手動式および空気圧式アクチュエータを用意しています。アクチュエータには多数のオプションがありますが、利用できるオプションはバルブのタイプとサイズによって異なります。「仕様」ページ29を参照してください。
- **ダイヤモンド:** 当社のウエアレスラジアルダイヤモンドには、2つの主要なシール面があります。1つは、吸入口(シート)の遮断シールで、もう1つは、バルブの内側と外側の間にあるショルダーのシールです。ウエアレスバルブでは、2つの異なるダイヤモンド材質を利用できます。使用可能なダイヤモンド材質のリストについては、「部品リスト」ページ32を参照してください。

3 バルブを開梱する場合

3.1 バルブアセンブリの開梱

すべての部品を注意して開梱してください。すべての部品が揃っており、不具合などがないことを確かめるまで、梱包材は処分しないでください。下記の付属品リストに照らして確認してください。

3.2 梱包材の廃棄

お住まいの地域の規則に従い、安全に梱包材を廃棄してください。外箱はダンボール製で、再利用できます。

3.3 検査

コンポーネントがすべて揃っていることを確認してください。輸送時の損傷がないかコンポーネントを点検してください。不足している部品や破損している部品があった場合は、すぐに最寄りの営業所にお問い合わせください。

3.4 付属

- バルブ
- アクチュエータ
- ダイヤフラム
- クランプ
- ユーザーマニュアル

3.5 保管

本製品は長期の保管が可能です。ただし、保管後はすべての部品が正しく機能することをよく確認する必要があります。

ダイヤフラム有効期間

ダイヤフラムの有効期間は5年です。

本製品で使用する際、保管に関する推奨事項、および保管後に運用するダイヤフラムに適用される使用期限を守ってください。

4 起動時のチェックリスト

- プロセスに適したダイヤフラムがバルブアセンブリに取り付けられていることを確認してください。詳細については、「ダイヤフラムの選択」次のページを参照してください。
- ラインにあるすべてのパイプ、バルブ、およびその他の機器が適切に支えられ、固定されていることを確認してください。
- バルブと配管が確実に接続されていることを確認してください。
- 手動式アクチュエーター 緊急時に迅速に遮断するために、アクチュエーターハンドルに簡単かつ安全にアクセスできるようにしてください。
- 空気圧式アクチュエーター 適切な給気設備に正しく安全に接続されていることを確認してください。

5 ダイアフラムの選択

ダイアフラム材質は、耐熱性、耐食性、耐蒸気性、耐久性、取り扱い性、CIP/SIPサイクルの回数、温度、持続時間を考慮して選択する必要があります。プロセスに適したダイアフラム材質を選択することが重要です。材料の仕様、材料の選択に関する詳細情報、または材料選択のサポートについては、www.wmftg.comにアクセスするか、最寄りの代理店にお問い合わせください。



バルブアセンブリで使用する化学物質が、ラインで使用されるバルブ本体、アクチュエータ、ダイアフラムに適合することを確認してください。サポートが必要な場合は、最寄りの代理店にお問い合わせください。

少なくとも1週間に1回、摩耗の兆候がないかどうかをダイアフラムを確認します。ダイアフラムの状態に懸念がある場合は、最寄りの代理店にお問い合わせください。

ダイアフラムの交換

ダイアフラムを交換することがベストプラクティスです。

- 少なくとも年に**1回** – 1週間に5 SIPサイクル未満で、各サイクルが2時間未満かつ135°C未満である場合
- 少なくとも半年に**1回** – 1週間に5 SIPサイクル以上で、各サイクルが2時間未満かつ135°C未満である場合

次の表に、バルブサイズに応じた各ダイアフラム材質の可用性を示します。

材質	バルブサイズに応じた可用性			
	0.5"	0.75"	1"	1.5"
Silicone	◆	◆	◆	◆
EPDM	◆	◆	◆	◆
EPDM Plus	◆	◆	◆	◆

6 設置

ASEPCO社製バルブの設置には次の3つの基本的なステップがあります。

ステップ1: バルブ本体を取り付ける

ステップ2: ダイヤフラムをアクチュエータアセンブリに取り付ける

ステップ3: アクチュエータ/ダイヤフラムアセンブリをバルブ本体に挿入し、クランプで固定する

バルブが適切に機能するように、以下に示す各ステップの詳細な指示に従ってください。

6.1 バルブ本体を取り付ける

バルブ本体の取り付けには2つの基本的なオプションがあり、サニタリークランプを使用して所定の位置に固定することも、所定の位置に溶接することもできます。

クランプでバルブ本体を所定位置に固定する

シングルヒンジクランプ、ダブルボルトクランプ、またはダブルヒンジクランプをこの目的に使用できます。使用に最も適したクランプについて、エンジニアリングチームに確認してください。

ASEPCO社製バルブは、各種メーカーのさまざまなクランプと互換性があります。

ASEPCO社のすべてのバルブには、アクチュエータ/ダイヤフラムアセンブリをバルブ本体に組み立てるためのクランプが供給されます。

6.2 ダイヤフラムの取り付けと取り外し - 手動式アクチュエータ

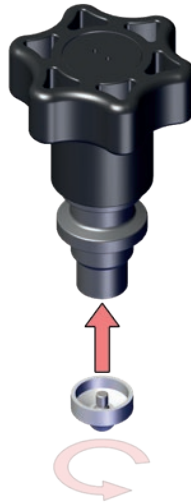
ダイヤフラムを取り付ける

1. アクチュエータを全閉位置まで回します。全閉位置になると、ハンドルとは反対側の端部にあるコンプレッサが完全に露出した状態になります。

コンプレッサ



2. ダイアフラム(黒色の部品)をアクチュエータの端部(コンプレッサ端部)にはめます。ダイアフラムをアクチュエータにきつくなるまでねじ付けます。



3. ダイアフラム/アクチュエータアセンブリをバルブ本体に挿入します。



4. アクチュエータハンドルを反時計回りに2回転回して、アクチュエータアセンブリがバルブ本体に完全に装着されるようにします。

5. クランプを取り付けて手で締めます。



ダイヤフラムを取り外す



蒸気を当てているときまたはバルブに圧力がかかっているときに、バルブクランプを開かないでください。

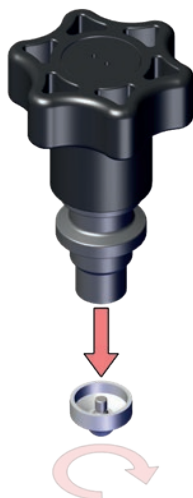
1. ハンドルを反時計回りに回して、バルブを開きます。
2. アセンブリからクランプを取り外します。



3. ハンドルを止まるまで時計回りに回します。これにより、ダイヤフラムが全閉位置まで伸長します。
4. アクチュエータを持ち、バルブ本体から離れる方向に引っ張ることで、アクチュエータおよびダイヤフラムアセンブリをバルブ本体から取り外します。



5. ダイヤフラムを反時計回りに回して、アクチュエータから緩めて外します。



6.3 ダイアフラムの取り付けと取り外し - 空気圧式アクチュエータ

ダイアフラムを取り付ける

1. アクチュエータが完全に閉じるように、空気を遮断します。
2. ダイアフラムをアクチュエータアセンブリシャフトにねじ付け、ダイアフラムをきつくなるまで時計回りに回します。



3. アクチュエータ/ダイアフラムアセンブリをバルブ本体に挿入します。

4. エア供給装置を取り付けてオンにし、ダイヤフラムを完全に引き込みます。



5. ダイヤフラムが引き込まれている状態でクランプを取り付けて締めます。
6. バルブが完全に閉じるように、空気源装置を遮断します。

ダイヤフラムを取り外す



蒸気を当てているときまたはバルブに圧力がかかっているときに、バルブクランプを開かないでください。

1. システムを減圧します。
2. (空気を**オン**にして)バルブを開きます。
3. クランプを取り外します。



4. バルブを閉じます(バルブが常時閉の状態である場合は空気を**オフ**にし、常時開の状態である場合は**オン**にします)。

5. ダイアフラムの縁を持ち、バルブ本体から離れるように引っ張ることで、アクチュエータおよびダイアフラムアセンブリを取り外します。



6. エア供給装置からアクチュエータを外します。
7. ダイアフラムを反時計回りに回して、アクチュエータから緩めて外します。

7 アクチュエータ — AKSシリーズ

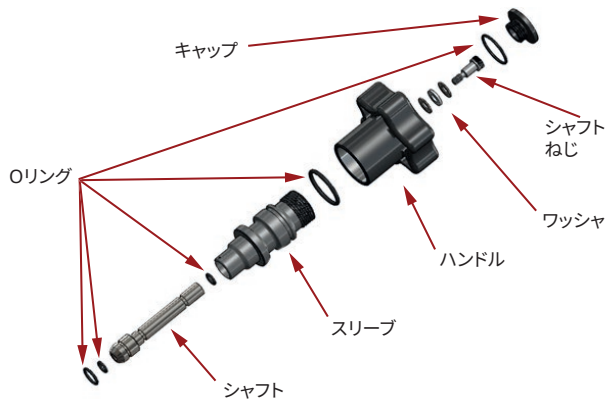
7.1 AKS手動式アクチュエータのメンテナンス

ステップ1: アクチュエータとダイヤフラムアセンブリをバルブから取り外す

ステップ2: ダイヤフラムを取り外す

「ダイヤフラムを取り外す」ページ11の指示に従ってください。

ステップ3: アクチュエータを分解してOリングとワッシャを交換する



1. 14番のドリルスパナドライバでキャップを取り外します。



2. 1/8インチの六角レンチを使用して、シャフトねじを取り外します。
3. スリーブからハンドルを取り外します。
4. スリーブからシャフトを取り外します。
5. シャフト、ハンドル、スリーブからOリングを取り外します。

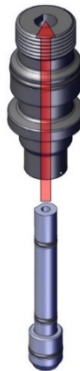
ステップ4: アクチュエータを組み立て直す

1. Oリングに潤滑剤を塗布し、シャフトとスリーブにOリングを取り付けます。



2. シャフトをスリーブに挿入します。

注記: シャフトの平面がスリーブの平面と合っていることを確認します。



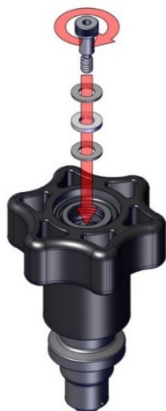
3. ハンドルをスリーブにねじ付けます。



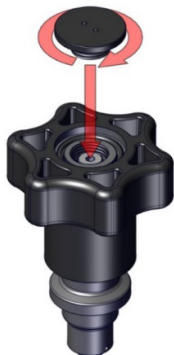
4. Oリングをハンドルの溝に取り付けます。



5. ワッシャとねじをハンドルに取り付けます。コンプレッサをハンドルの方向に押し、シャフトの平面が一直線になるようにします。



6. 14番のドリルスパナドライバを使用してキャップを取り外します。



ステップ5: ダイアフラムを交換する

「ダイアフラムを取り付ける」ページ9の指示に従ってください。

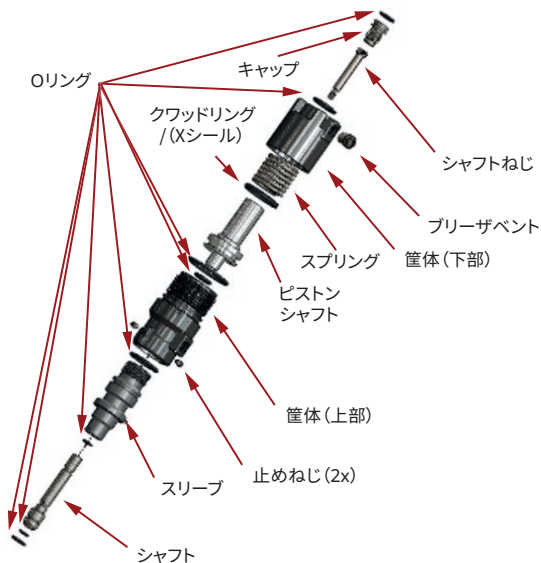
7.2 AKS空気圧式アクチュエータのメンテナンス

ステップ1: アクチュエータとダイアフラムアセンブリをバルブから取り外す

ステップ2: ダイアフラムを取り外す

「ダイアフラムを取り外す」ページ15の指示に従ってください。

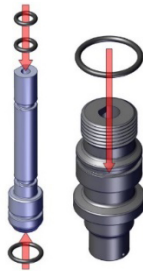
ステップ3: 空気圧式アクチュエータを分解して組み立て直す



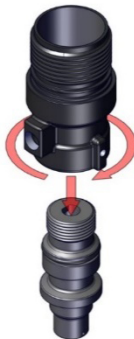
1. 5/16インチの六角レンチを使用し、アクチュエータの上部からキャップを緩めて外します。
2. 下部筐体のねじを外しながら、上部筐体をつかみます。
3. アクチュエータ本体の内側からスプリングを取り外します。
4. 1/8インチの六角レンチを使用してシャフトねじを取り外します。
5. ピストンを取り外します。
6. 3/32インチの六角レンチを使用して、10/32止めねじを取り外します。
7. 筐体(上部)のねじを外します。
8. スリーブからシャフトを取り外します。
9. シャフト、スリーブ、ピストン、筐体、およびキャップからOリングを取り外します。

ステップ4: 空気圧式アクチュエータを分解して組み立て直す

1. Oリングをシャフトとスリーブに取り付けます。



2. 上部筐体をスリーブにねじ付けます。



3. 止めねじを上部筐体にねじ込んで取り付けて締めます。



4. 内部のOリングをアセンブリに取り付けます。



5. シャフトをスリーブに挿入します。

注記: シャフトの平面がスリーブの平面と合っていることを確認します。



6. Oリングを上部筐体の外部に取り付けます。



7. クワッドリング/スリングをピストンに取り付けます。



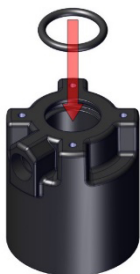
8. ピストンをアセンブリに挿入します。



9. スプリングをアセンブリに挿入します。



10. 下部筐体にOリングを挿入します。



11. 下部筐体をアセンブリにねじ付けます。



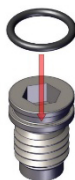
12. プリーザベントを下部筐体にねじ込みます。



13. ショルダーねじをアセンブリにねじ込みます。コンプレッサを空気圧式シリンダの方向に押し、シャフトの平面が一直線になるようにします。



14. Oリングをシャフトキャップに取り付けます。



15. シャフトキャップをアセンブリにねじ込みます。



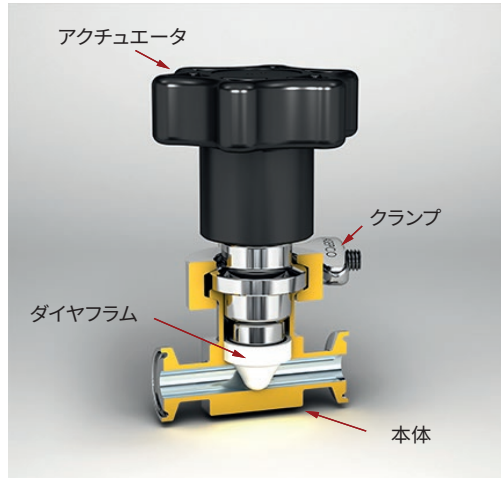
ステップ5: ダイアフラムを交換する

「ダイアフラムを取り付ける」ページ14の指示に従ってください。

8 洗浄および消毒



重要: 空気圧式アクチュエータのシールは、一般的なアクチュエータの場合は3年毎、ATEXアクチュエータの場合は毎年交換しなければなりません。手動式アクチュエータのシールは10年毎に交換しなければなりません。 See 「部品リスト」 ページ32, for replacement kit part numbers.



CIP/SIP洗浄プロセスにおいて化学的不適合性や高温への過度な暴露によってダイアフラムを損傷しないようにする必要があります。

当社のすべてのバルブ本体とアクチュエータはオートクレーブで滅菌できます。ASEPCOで使用されるダイアフラム材質は、材質にもよりますが、定格温度が135°C以上となっています。したがって、オートクレーブプロセスがこの温度を下回っている限り、組み立て直す前に温度が下がるのを待つ必要はありません。



オートクレーブ内の滅菌後、バルブとアクチュエータの表面が熱くなり、取り扱いの際にけがの原因となる可能性があります。適切な個人用保護具を着用する必要があります。また、バルブとアクチュエータを取り扱う際には注意が必要です。

すべてのアクチュエータには、高温か低温かにかかわらず、どのような条件でもダイアフラムの締め過ぎを防止する、無調整式のトラベルストップが組み込まれています。

9 仕様

パラメータ	値
最高作動温度	135°C
最大使用圧力	1.0MPa

モデル番号	サイズ	最低空気圧
FP05-01	0.5"空気圧式	0.4MPa
IP08-01	0.75"空気圧式	0.4MPa
IP10-01	1.0"空気圧式	0.6MPa
IP17-01	1.5"空気圧式	0.6MPa

10 トラブルシューティング

問題	考えられる原因
プロセス流体が漏れる	<ul style="list-style-type: none">バルブに対するクランプの不適切な取り付けアクチュエータシールの故障ダイヤフラムの故障ダイヤフラムのねじ込み不足バルブの損傷
空気が漏れる	<ul style="list-style-type: none">アクチュエータシールの故障
バルブを完全に開閉できない	<ul style="list-style-type: none">アクチュエータの故障ダイヤフラムの故障ダイヤフラムのねじ込み不足
バルブが動かない	<ul style="list-style-type: none">ダイヤフラムの固着アクチュエータの問題

バルブ本体の問題

バルブ本体の問題で最も一般的なものを次に示します。

- バルブの損傷 – バルブの周辺で漏れに関する問題が発生した場合は、損傷がないかバルブをよく点検してください。
- ダイヤフラムの漏れ – クランプが正しく取り付けられていない場合、不適切な装着によりダイヤフラムで漏れが発生することがあります。注意して組み立て手順に従ってください。

アクチュエータの問題

アクチュエータの問題で最も一般的なものを次に示します。

- 空気圧式アクチュエータのシールの故障または漏れ – 通常、作動中にバルブから空気の漏れる音が聞こえます。また、バルブが完全に開閉していない場合もあります。
- バルブアセンブリやアクチュエータの落下によるアクチュエータシャフトまたはハンドルの曲がり、損傷 – このような場合、曲がったシャフトや損傷したハンドルによりダイヤフラムが適切に固定されなくなり、プロセス流体の漏れが発生することがあります。
- 曲がっているか組み立て方が誤っているアクチュエータ – バルブを簡単に組み立てることができない場合は、損傷がないかを確認してください。無理にバルブを組み合わせないでください。
- バルブを簡単に開閉することができない場合 – アクチュエータを再確認して、適切に組み立てられていることを確かめてください。

ダイヤフラムの問題

ダイヤフラムは、バルブにおいて摩耗の大きいコンポーネントであり、最も故障しやすい箇所です。ダイヤフラムが故障する一般的な原因を次に示します。

- 不適切な組み立て – ダイヤフラムは、アクチュエータおよびバルブ本体に正しく取り付けられていない場合、早期に摩耗することがあります。
- アクチュエータの故障 – 空気圧式アクチュエータの保守を怠ると、ダイヤフラムの致命的な故障につながる可能性があります。アクチュエータには頻繁な保守は不要ですが、年に1回程度、アクチュエータシールを交換する必要があります。交換の頻度は、作動回数によって異なります。

- ダイアフラムの酷使—交換せずに長期間使用した場合—ダイアフラムの寿命は、プロセスおよびダイアフラムに接触する化学物質によって決まります。
正しい間隔で交換すると、バルブとアクチュエータの寿命が大幅に延び、投資回収率が最大限に向上します。
- 化学的不適合性—これがダイアフラムの故障をもたらす最も一般的な原因です。そのため、お客様のプロセスで使用される化学物質に適合するダイアフラム材質を選択することが重要です。
- 作動温度の不適合—定格温度よりも高い温度でダイアフラムを使用すると、材質の劣化やダイアフラムの溶解によって、漏れが発生しバルブおよびアクチュエータを損傷する恐れがあります。
必ず、お客様のプロセスの温度に対応できるエラストマーを選択してください。

ダイアフラムの故障の原因がわからない場合は、最寄りの営業所にお問い合わせください。

10.1 技術サポート

ASEPCO社は、総合的なアフターサービスを提供しています。有害な問題(材質の欠陥やバルブの機能不良など)がバルブで発生した場合は、直ちにASEPCO社に問い合わせて、最も効果的な問題の解決法を確認してください。

スペア部品およびASEPCO社製バルブの操作に関する助言については、最寄りの営業所にお問い合わせいただくか、www.wmftg.comにアクセスしてください。

11 部品リスト

11.1 交換用ダイヤフラム

材質	0.5"	0.75"	1.0"	1.5"
Silicone	FS05	IS08	IS10	IS15
EPDM	FE05	IE08	IE10	IE15
EPDM Plus	FQ05	IQ08	IQ10	IQ15

11.2 アクチュエータメンテナンスキット

手動式アクチュエータ

部品番号	適用対象	説明
MAK-059	0.5"ウエアレス手動式アクチュエータ	シール、ハードウェア、および潤滑剤を含む
MAK-089	0.75"ウエアレス手動式アクチュエータ	シール、ハードウェア、および潤滑剤を含む
MAK-109	1.0"ウエアレス手動式アクチュエータ	シール、ハードウェア、および潤滑剤を含む
MAK-159	1.5"ウエアレス手動式アクチュエータ	シール、ハードウェア、および潤滑剤を含む

空気圧式アクチュエータ

部品番号	適用対象	説明
PAK-058	0.5"ウエアレス空気圧式アクチュエータ	シール、ハードウェア、および潤滑剤を含む
PAK-088	0.75"ウエアレス空気圧式アクチュエータ	シール、ハードウェア、および潤滑剤を含む
PAK-108	1.0"ウエアレス空気圧式アクチュエータ	シール、ハードウェア、および潤滑剤を含む
PAK-158	1.5"ウエアレス空気圧式アクチュエータ	シール、ハードウェア、および潤滑剤を含む

12 保証

ASEPCO社製バルブのすべての販売には以下の条件が適用されます。バルブの発注書のASEPCO社による承諾は、本販売条件のお客様による承諾を条件として、これによって行われます。これには特に、お客様の発注書または見積依頼書に含まれている条件とは異なる条件または追加される条件または変更される条件も含まれます。かかる承諾は、お客様が本条件の受領から14日以内に本条件に対して書面で明示的に異議を申し立てなかった場合に生じるものとします。本条件のいかなる権利放棄、変更、または修正も、お客様の発注書によるかそれ以外の方法によるかにかかわらず、ASEPCO社の正式代表者による書面での明示的な承諾がない限り、有効ではないものとします。

使用の制限

ASEPCO社製バルブは、定格動作圧力以下、かつASEPCO社によって指定された温度範囲内での無菌処理用に設計されています。ASEPCO社は、お客様に提供されるASEPCO社の仕様書に示されている、意図されたもの以外の用途またはサービスに対するそのバルブの適合性について否認します。また、ASEPCO社は、不適切な据付時適格性確認手順の後、またはASEPCO社の推奨に基づくダイヤフラムの交換を行わないサービスの後は、いかなる使用に対してもそのバルブの適合性について否認します。ASEPCO社はASEPCO社製部品が使用されている場合のみ性能保証します。

保証

ASEPCO社は、その製品について、ASEPCO社によって推奨または承認された目的および方法で使用されていることを条件として、アクチュエータについては出荷日から3年間、それ以外のコンポーネントについては出荷日から1年間、材質または製造上の欠陥に対して保証を行います。保証は、ASEPCO社による製品の受領および評価を条件とし、その製品または部品に欠陥があるとASEPCO社が確認することによって行われます。そのような場合、ASEPCO社の保証義務は、欠陥のある製品または部品の正味販売価格を超えないものとします。ASEPCO社は、ASEPCO社製バルブアセンブリの一部として販売される場合がある他の製造業者の製品について一切保証しません。

ASEPCO社は、明示か黙示かを問わず、その他のいかなる保証も行いません。また、前述の保証を超える特定の目的に対する商品適格性および適合性に関するすべての黙示的な保証は、ASEPCO社によって否認され、本保証から除外されます。ASEPCO社はその製品の販売に関連する他のいかなる義務も負わず、またいかなる人物もそのような義務をASEPCO社に負わせることはできません。本保証は、ASEPCO社による書面での事前の承認なしに修理または変更されている製品または部品、またASEPCO社の指示または推奨に反する方法に限らず不適切な方法で使用されている製品または部品には適用されません。ASEPCO社は、お客様またはその代理人によって提供された不正確または不完全な情報に起因する設計上の欠陥について責任を負わないものとします。

13 返品に関する情報

WMFTGまたはその子会社や代理店に製品を返却する場合は、現地の衛生安全法に従い、その製品に接触した物質を申告する必要があります。この申請がない場合、遅延の原因となります。必ず、製品を発送する前に、所定のフォームにより弊社に送信していただき、最寄りの代理店からRMA(返品承認)をお受け取りください。RMA書面のコピーを製品の梱包の外側に貼り付ける必要があります。

製品ごとに個別の汚染除去証明書に記入し、製品の梱包の外側に貼り付けてください。汚染除去証明書のコピーは、WMFTGのWebサイト(www.wmftg.com/support/decon)からダウンロードできます。

必ず、製品を返却する前に洗浄して汚染を除去してください。

バルブまたはバルブコンポーネントを工場に返品する場合は、ASEPCOに問い合わせることで返品許可(RMA)番号を確認してください。輸送時の破損を防ぐためにバルブまたはコンポーネントを丁寧に梱包してください。外箱、梱包明細票、およびすべての文書にASEPCOから提供されたRMA番号を表示してください。

14 製造元の名称と所在地

ASEPCO
1161 Cadillac Court,
Milpitas,
CA 95035

www.wmftg.com

最寄りの営業所については、<http://www.wmftg.com/gb-en/contact-us/>をご覧ください。

15 商標

Copyright ©2020 ASEPCO Corporation. 無断複写・転載を禁じます。

Radial-Diaphragmは、ASEPCO Corporationの商標です。その他すべての商標および商品名は、それぞれの所有者に帰属します。

16 出版履歴

m-weirlessdiaphragmvalve-ja-01 ウエアレスRadial diaphragm™ インラインバルブ

初版 02.18

m-weirlessdiaphragmvalve-ja-02 ウエアレスRadial diaphragm™ インラインバルブ

改訂版 2 05.2020

17 免責事項

本書に記載されている情報は正確であると考えられますが、ASEPCOは、誤りがあった場合でも一切の責任を負いません。また、予告なしに仕様を変更する権利を有します。

使用または取引の過程から別の方法で生じる可能性のあるすべての保証については、これによって明示的に除外および否認されます。いかなる場合も、ASEPCO社は、特別的、偶発的、懲罰的、結果的、または間接的な損害について、およびお客様、前のお客様、販売代理店、またはその他の者に対する予想された利益の逸失について、責任を負わないものとします。



ASEPCO製品はその製品情報もしくは仕様で指定されている圧力および温度範囲内でのみ、またはASEPCO社によって書面で承認された内容で、使用しなければなりません。

ASEPCO製品の誤った使用は、人身傷害または物的損害をもたらす可能性があります。ASEPCO製バルブで漏れの兆候が見つかった場合は、操作せずに、ラインから取り外し、修理または交換してください。